森の名手・名人シリーズ30

名人 上平 活良（76）
岐阜県郡上市

聞き手 瀬川 保乃香
岐阜県立郡上高等学校二年
平成21年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、42名の「森の名手・名人」がいます。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

山菜採り
山菜を育てる

1. 山菜採り

山菜は山とかに自生しているもので、食用にする植物のことをまとめて山菜と呼んだのよ。山菜の時期はだいたい4月から6月やで、5月の初めに採りに行くのが良いかな。山菜を採りに行くにしても服装だけはちゃんとしてかな、ブヨや蚊なんかに刺されてまうでな。長袖に長ズボン、体が冷えてまわんように着込んでかないかんのよ。あとは、軽い気持ちで行ったらいかんな。今は車があるもんで山の近くまで車で行けば良いんやけど、どこからでも山に入ることに変わりはないんよ。どんな危険が待ち受けとるか分からんし。登山するときと同様の心構えと準備で行かないかんのよ。できれば経験者と一緒に行くのが望ましいな。

実際に山菜を採るときも、次の芽が生えてくるように根こそぎ採ってはいかんのよ。あと注意しないかんのは毒草やな。山菜によく似とるもんで、山菜採りに出掛ける前に本やなんかで確かめてから行かないかんのよ。中には命の危険にさらされるものもあるもんで、十分注意することが大事なんよ。例えば、トリカブトなんかは日本に30種類以上あると言われとるし、ニリンソウやモミジガサによく似とるもんで間違えやすいのよ。他にはアザミ、アズキナ、イワブキ、ウド、クサギ、サルナシ、ゼンマイ、フキ、ウワバミソウ、オオバギボウシ、カタクリなどがあるんよ。これらによく似た毒草もあるもんで、間違って食べてまわんようにしないかんのよ。山菜の中にはあく抜きをしないかんものもあるのよ。

2. 育てている山菜

山菜といっても人工でなしに、自然に生えたタラノメを育てとるのよ。種をまいたり、どっかから採ってきて植えたりはせなんだけど、間伐してユンボで木を引き出したら、土が混ざったもんで何年か前の実が出てきてその実が次の年に自然に出てきたのよ。

その出てきたタラノメを今でもそのまま残しとるのよ。タラノメの他にも木を育てようと思ったんやけど、山にカモシカが出るもんで、育てた木を喰ってまうんよ。ほんで、タラノメでも残いときや、針があってもカモシカはタラノメを食べてくれるもんでわざと残いとるのよ。

タラノキ

そういう風に残いとったらだんだんタラノメの面積が広くなってきて、これはもったいないってことでタラノメを採って「道の駅」に出荷したら3万円くらい収入があったもんで、これはいいなと思ってもう3年くらい続けとるの。俺のは山が肥えとるもんで、普通のタラノメより太いタラノメができるんよ。やもんで、よそのよりも高く売れたのよ。

山には他にコシアブラとかも残しとるけど、やっぱりタラノメだけでびっくりするくらいの畑みたいになったのよ。そういう風で、俺の山のタラノメは自然に生えたもので、俺が一生懸命植えたわけではないんよ。俺の山にあるタラノメは600本以上はあるが、それをさらに途中で切ってやるもんで、二又になったり、三つ又になったりして、600芽より多く採れるのよ。もとは1本やけど次の年には上で3本とれるわけよ。

3. 他の山菜

コシアブラってのがあって、この木の新芽も昔は食べたのよ。これはおいしゅうはないんやけど、60年前に終戦したころには食べるもんがなかったもんで、コシアブラの芽を春に摘んで食べたのよ。今、タラノメとコシアブラを比較すると、コシアブラの方が人気があるんやけど、コシアブラはタラノメの半分しか収穫ができんのよ。今は山菜としては食わんけど、当時は食料の足しにリョウブって木もご飯に入れて食っとったんよ。

ウリハダカエデっていうのもあるが、これは秋に紅葉するだけで、木の肌がウリみたいなんよ。これも食べるものにはならないな。トウキチロウってのは山菜の王様で、なかなかないんよ。やもんで、俺は他の山から採ってきて植えとるんよ。今はまだ花が咲いとるだけやけどな。あとは、オウレンという薬草が生えとるんやけどよ、これは大事にして木を大きくしとるのよ。

山を間伐したらタラノメだけでなしに、ホオノキなんかも自然に生えたの。間伐は普通、100%中30%切るのに、俺は逆に30%を残して木を切るのよ。クリの木もあるんやけど、これも自然に生えたのよ。今は林業グループの皆さんと里山再生を目指して、タラノメとか、コシアブラの生産を目的に研究してるんよ。

4. 収入

今は、木材が高く売れんくなってまったんよ。最近は建築戸数が少なくなってきとるし、外材を多く使うもんで、単価も安くなってまったんよ。間伐した木なんかを市場へ持っていっても、1本200円くらいでしか売れんけど、タラノメは1パック6芽くらいでいっぱいになるものが300円くらいで売れるのよ。材木やと育つのに40年くらいかかるのよ。それくらいかけて育てんとお金にならんのよ。でも、タラノメやと1年で収穫できるし、毎年お金になるのよ。上平のタラ林は1年1年約3万円の現金収入があるんよ。1年で3万円でも10年で約30万円になるんやけど、木材は40年経っても手取りや経費などを引くと、利益は10万円くらいにしかならんのよ。山の間伐した木を売るよしか、タラノメを売った方が、収入があるんよ。ほんで、みんなにも教えてやって、自分でも大事にしとるのよ。タラノメが出るにはだいたい5月の初めから10日くらいの間でね、ちょうど連休とかの日にいろんな人が喜んで買って行ってくれるのよ。

5. 木の説明・利用

スギ、ヒノキ、マツ、マキ、サワラなんかは針葉樹で、これは建築材に使われるな。クリの木なんかは闊葉樹で、特に鉄道用の枕木に使われるんよ。枕木にクリの木が使われる理由は、1番値段が高いが、腐らんのよ。建築材の土台にされたりもしとるし、今は屋根はトタンや瓦になっとるけど、前はクリの木を板にへげて、それで職人さんが屋根を葺いとったのよ。カツラの木やけど、これは建築材でなしに家具にするように二生懸命育てとるんよ。ナラの木は薪にしたり、炭に焼いたりしたんよ。昔は一般家庭ではガスとか石油が使えなんだもんで、全部薪を使ったの。どの家も山を持っとって、大事にしとったんよ。そのころは木なしでは生活できなんだんよ。

6. タラノキ

タラノキは日本各地、東アジアに分布しとるのよ。伐採跡地や林道わきなど日当たりの良い山林に生えるんよ。樹木には棘が多くあるし、生育環境によるが1年で20㎝～60㎝ほど伸び、5年で3mに達するものも珍しくはないんよ。タラノキは成長が早いもんで、地中から新しい枝を生やした時に、その先端近くについた芽を採取するのが楽なんよ。若い枝やと棘があって直線的に伸びるもんで目に付きやすいのよ。農家で栽培される場合は枝に棘のない種も用いるが、タラノキはウルシと似ているため、自生のもので、棘のないものは注意しないかんのよ。タラノキは新芽の根元で容易にむしることが出来るんやけど、鎌を用いる人もおるのよ。

採取は先端から上に向いた1番目の芽と、そのわきから斜めに伸びとる2番目の程度までとし、あとは去年伸びた枝を見て芽の候補が残っているか確認をするのよ。一定の時期を過ぎると候補となる芽のもとは枯れてまって発芽しんのよ。来年収穫できるかを考えて、残すかどうかを決めないかんのよ。新芽は去年伸びた枝だけにつくので、木を枯らさんように注意しないかんのよ。

タラノキは落葉性の低木で、幹はあまり分岐せずまっすぐ伸びて、上方で枝分かれしとるのよ。葉は2回羽状複葉で互生、長さは50㎝～100㎝で、葉柄の長さは15㎝、大きめの葉を四方に突き出しとるのよ。小葉の形は卵形から楕円形、各羽片は5枚～9枚、長さ5㎝～12㎝、巾2㎝～7㎝で先は尖がっとって、葉縁は鋸歯状になっとるのよ。花は小さく、白色で多数、円錐状の大型花序で、1つの花はがく片、花弁、おしべ、花柱、いずれも5の数でなりたっとるのよ。果実は液果で、小さな径3㎜ほどの球形で、黒色に熟すのよ。全体はやや小型で、棘の少ないものをメダラといい、山草として食用するにはこちらが喜ばれているのよ。

タラノキの名前の由来は、タラノキ、タロウノキ、タロノキ、ウドと同様に山菜の王様からタロウウドなど、人名の「太郎の木」を連想させるような呼び名があるのよ。これが転訛したという説もあります。タラノキ特有の香気と味覚は山菜の中でも最上位にランクされており、薬草の王者なんよ。タラノキの芽は山のバターとも呼ばれるくらい多くの脂質とたんぱく質を含んどって、栄養的にも価値の高いものなんよ。

上平さんの山

名人 上平（かみひら） 活良（かつろう）さんのプロフィール

●生年月日：昭和8年1月14日生まれ
●職　業：林業
昭和31年木材販売業、昭和39年製材業、昭和45年建築業（上平工務店経営）。平成10年から白鳥町林研グループ会長をつとめ、郡上地域林業グループの会長、県の林業グループの役員などをつとめる。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　臼井征雄】